

まち

No.7 2016年 秋号

発行日：平成28年10月14日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎03-3259-0531(学科事務室)
発行責任者：八藤後 猛(教室主任)
編集担当：横内憲久
制作：株式会社 ムーンドッグ

巻頭言

ポケモン GO はまちづくりに役立つのか？

鳴り物入りで登場したポケモン GO 騒ぎも少し落ち着いてきたようです。歩きながらゲームをすることで、自分が危険なばかりでなく、他人を危険にさらしたり、勝手に他人の家の敷地に入り込んだりといったマイナス面も報道されてきましたが、このポケモン GO を利用して、まちの活性化を図ろうという動きも活発化しています。自治体が企画するウォークイベントなどにもポケモン GO を取り入れていくことが考えられているようです。また、ある外食産業では店内にポケストップと呼ばれるスポットを設けることによって集客促進を図ろうとしています。また全国の観光地などでもポケモン GO で人が多く集まるようになったという報道がなされています。実際にどの程度まちの活性化に貢献するのかは、まだはっきりとした効果は示されていませんが、ある程度の集客効果はあると考えられています。

しかしポケモン GO のようなゲームが、集客効果によるまちや経済の活性化とは別の面でメリットがあると考えられていることをご存じでしょうか？ ずっと部屋に閉じこもりきりだった人が、ポケモン GO のおかげで部屋から出てきたというある政治家の話が報道され、話題となりました。またポケモンを探して歩き回るによって運動量が増し、これが健康につながるのではないかというメリットを考える人もいます。

私が所属している学会の一つである日本運動疫学会では、このポケモン GO の流行について「身体活動促進ゲームに対する声明」を発表しました。声明の内容は「日本運動疫学会は、身体活動を促進するゲームの開発・普及を前向きに評価するとともに、このようなゲームのさらなる「進化」に期待します」と



contents

巻頭言	1
特集 商店街が頑張らないとまちづくりはムリ!?	2
平成28年度上半期の就職活動状況	8
平成28年度「まち」行事・イベントカレンダー	9
新任教員・職員紹介	12
教職員・学生の活躍	12

教授 青木 和夫



いうものです。学会がポケモン GO を支持する声明をだしたというので、私たちの間では話題になりました。日本運動疫学会は、身体活動による国民の健康の保持・増進効果や身体活動の促進方法を研究する学会であり、今回の声明は身体活動の促進方法として積極的にゲームを取り入れていくべきだという趣旨を表明したことになります。

さて、この声明がまちづくりにどう関係してくるのでしょうか？ 日本運動疫学会ではこの声明の詳細として、「街づくりに関係するさまざまな立場の人に対し、公園や歩道の整備など、安全に楽しく「身体活動促進ゲーム」が楽しめる環境づくりに期待します」としています。つまり、ポケモン GO のような、身体活動を促進するゲームは国民の健康づくりに役立つが、安全の面を考えると環境面での問題が多いので、もっと安全にゲームのできる環境を整備してほしいという、まちづくりへの期待と考えられます。

現代社会では運動不足による肥満や、糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病が世界中で大きな健康問題となっています。そのため適切な運動を行うことが推奨されていますが、運動する時間がないとか、面倒であるとか、運動する場所や施設がないという理由で、なかなか運動を習慣化できないのが現実のようです。そこで、特別に運動をするのではなく、日常生活の中で無意識に身体を動かしてしまうような環境をつくるが必要になっています。毎日歩きたくなるような道、ちょっと寄ってみたいくなるような公園、ぶらぶらと歩き回って買い物ができる商店街など、まちづくりで実現できるのではないのでしょうか。

このように、健康増進の面からもまちづくりが社会から期待されています。今回のポケモン GO のようなゲームを健康づくりに役立てようという動きもますます増えてくるものと思われれますが、一方で歩きスマホに対してはその危険性が問題となります。安全に「身体活動促進ゲーム」ができるような公園等の整備もさることながら、まちづくり工学科で学んだ皆さんが、ゲームの力を借りなくても人間を動かして健康にしてくれるようなまちをつくってくれることを期待しています。

まちづくりはムリ!? 商店街が頑張らないと

存続の危うい都心の商店街

東京千代田区の「大丸有」(大手町・丸の内・有楽町を総称して)地区を始めとして、銀座・新橋や虎ノ門など国際競争力の強化を背景に大規模な再開発の動きが活発化している。一方で、かつては日常の生活と密接にかかわってきた商店街などはシャッターが閉まったままで「シャッター通り」と揶揄され、閑散とした風景を見せているところも多い。これは地方都市や東京郊外の商店街

ばかりでなく、神田・御茶ノ水付近でも見られる。ただ、ここではシャッターの閉まった店がたちまち大規模チェーン店などに建て替えられるから、賑わいは廃れていないように思える。しかし、これらの店舗は夜間人口よりも圧倒的に昼間人口が対象となるため、下町に代表されるような地元のための生活中心の商店街とはならない。したがって、古くからある町会などは少子高齢化の一途をたどり、その存続まで危ぶまれている。

商店街の活性化や再生はいま始まった問題ではなく、2000年頃から中心市街地活性化や大規模小売店舗立地の規制などの方策^{*1}が国や自治体等でとられてきたが、なかなか復活できないところが多い。

これまで商店街は地元住民の日々の暮らしを支えるばかりでなく、祭りや防災・防犯などの相互補助など、地域社会を形成する役割を担っている。そのため、商店街の衰退はまちにとっても大きな生活の礎を失うことになるといっても過言ではない。

頑張っている商店街

チェーン店との競合

そんななかでも、しぶとく生き抜いている商店街は少なくない。今回の特集で取り上げた、下町の風情が残る台東区・谷中銀座商店街や豊島区・巣鴨地蔵通り商店街、山の手の杉並区・阿佐ヶ谷パールセンター商店街は、その代表といえるであろう。

都内や郊外でも鉄道駅に直結するような駅前商店街は活気が感じられるところも多いが、それらの商店構成を見ると、いわゆる全国展開をしているような各種チェーン店がめじろ押しである。チェーン店は、基本的にどこでも同質のサービスが受けられるという大きなメリットがあるためファンが多い反面、画一的なマニュアルのサービスで地域性は感じ



台東区 谷中銀座商店街

にくい。「出沒! アド街ック天国」などでおなじみの山田五郎氏は、『商店「街」というからには、それ自体がひとつの街として、地域コミュニティの核となってくれるのが理想です。古くからある商店街は、お店が住居を兼ねているものが基本。店主もお客さんと同じコミュニティの住民ですから、チェーン展開の大型店とは地域への愛着や責任感の深さが違います』^{*2}と、端的に商店街の意義を述べている。

その点、今回の3つの商店街でいえば、谷中銀座商店街と巣鴨地蔵通り商店街は有名大型チェーン店は少なかった。阿佐ヶ谷パールセンター商店街はJR阿佐ヶ谷駅近くのためチェーン店は多い(約50件)が、青梅街道側から中央部にかけては少なくなっていた。阿佐ヶ谷地区は若者層の人口増のためチェーン店化は仕方ないかもしれない。それでも、地元向けの商店や飲食店は多く、買い物客でにぎわっている。他の商店街ではチェーン店は商店街に加盟しない例も多いといわれているが阿佐ヶ谷は、しっかりと加盟もして、商店街の催しにも協力的であるという(振興組合鶴田事務局長談)。

もっとも地元民との接点が大きいと思われるのが筋金入り下町の谷中銀座商店街であるが、これまで存亡の危機は二度あったといわれている。一度目は昭和52年の大型スーパーの進出、二度目は昭和60年代のコンビニの開店である。いずれもそのたびに商店街が一丸となってさまざまなアイデアと工夫で危機を乗り越



豊島区 巣鴨地蔵通り商店街

指摘した方がいた。そこでは、元気のある商店街には、以下の4つの共通点があるとしている。

①歩行者天国を実施、②イスがある、③個人商店が元気であること、④振興組合が機能していること。どれももつともである。

自動車を気にしていたらおちおち歩いてはいられないし、楽しむには数十m程度の通りでは短すぎる。100m以上の通りの両側に商店が軒を並べていると楽しさも増加するが、適度の距離にちょっと休めるイスやベンチが欲しい。個人商店が元気であるのは当然として、その商店を束ねる組合の活動はもっと重要である。今回の3商店街とも商店街のなかに振興組合の事務所があり、客のニーズや商店・商店街のあり方に気を付けているようである。

元気のいい商店街があると、暮らしていても、訪れても楽しい。とくに、直接触れ合える住民にとってはきっと自慢したくなるし、誇りに思うようになる。

最後に、山田五郎氏からもうひとつ。『商店街は観光地と違い、地域コミュニケーションの核としての役割も担っているのです』*2。今回の取材のために何回か現地に行ったが、そのたびに小学校帰りの子どもに「お帰り～」と大きな声をかけるお店の奥さんに出会った。すぐく前の自分の子どもの頃を思い出した。

(文責 横内 憲久)

え、地元住民の援助をあつて、そのたびにたくましい商店街になったといわれる*3。JR日暮里駅から歩いて、丘の上の夕焼けだんだんから商店街が一望できるのは、自分の街と感じる大きな要素であろう。内藤廣風に言えば「まちの依って立つところは大地とその場所に生きる人間である」*4。これが場のちからかもしれない。

巣鴨地蔵通り商店街も大規模な割にはチェーン店は少なかった。約800mのJR巣鴨駅側3分の1は高岩寺（とげぬき地蔵尊）の参拝客を相手にするゾーン、反対の都電荒川線庚申塚駅側の3分の1は周辺住民の商店、真ん中がその融合ゾーンともいえる。通称「おばあちゃんの本宿」といわれるように、高齢者の利用者は多い。

いずれの商店街にもシャッターが閉まりっきりの店舗はほとんど見られず、商店街の努力は大いに評価できようが、ここに来て新たな脅威が現れてきている。

大敵はマンションか

結論からいえば、脅威はいわゆる中高層のマンション（集合住宅）建設である。いずれの商店街も10分足らずで都心へ出られるので、マンシ

ョン立地は致し方ないといえよう。マンションが商店街に与える影響には、マンションによって商店がなくなり、賑わいの連続性が損なわれて、商店街としての風景が成立しなくなるのが挙げられよう。さらに、大規模マンションは当該地とはかわりのない新住民を大量に供給させることになる。場所とともに生きてきた人々のなかに新住民が入り込むのは、ウイスキーに水を足すのに似て、だんだんと場の濃度が薄まっていくのである。

3商店街で最もマンション*5が少なかったのが谷中銀座で、商店街に面している建物では1棟もなかった。一方、多かったのが巣鴨であり、すでに通りに面しているだけで20棟を超している。次いで阿佐ヶ谷であるが、数は巣鴨より少ないが、1棟の住戸数は多くなっていった。しかし、いずれのマンションも通りに面する1階部分は、商業施設となっており、通りとしての連続性は担保されている。

マンションの立地は夜間人口増が見込めるため商店街や地域にとってはマイナスではないが、上述の地元に興味を示さない新住民であると事は面倒になる。いまから、新住民の取り込み策の準備をしておく必要がある。

商店街の元気のもと

商店街好きな人は意外と多く、インターネットで検索すると次々と情報が出てくるし、そのコメントも的を射ている。そのなかでも、「多くの商店街を巡った結果、元気のある商店街には共通の要素がある」*6と



杉並区 阿佐ヶ谷パールセンター商店街

*1：中心市街地活性化法（1998年）、大規模小売店舗立地法（1998年）など

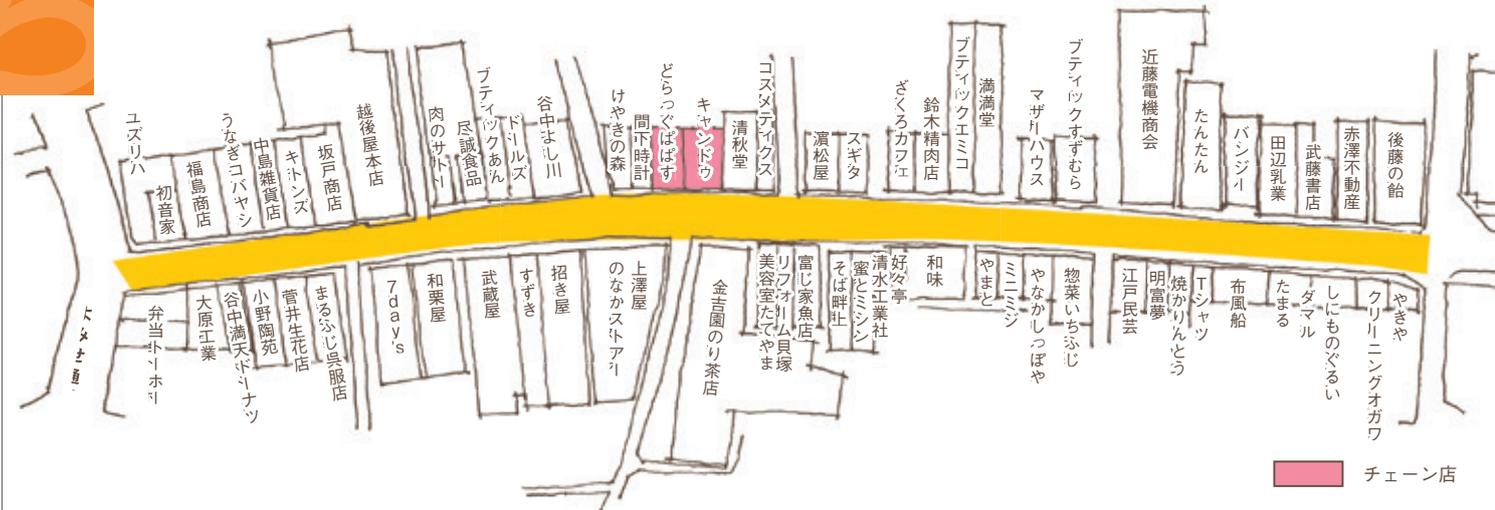
*2：山田五郎／西洋美術・街づくりなどが専門。「出沒！アド街ック天国」などTV出演多数。／「日経マガジスタイル」東京の魅力発見号 p.4／2015.8.27

*3：谷中銀座商店街振興組合 HP

*4：内藤廣／場のちから／王国社／2016.7

*5：ここでの対象のマンションは6階以上とする。なお、マンションの判断は外観からの判断とした。

*6：名前を失念したため、引用が憚れるが、有用な指摘なのであえて記述させていただいた。



「夕焼けだんだん」からは谷中銀座の全貌が見える



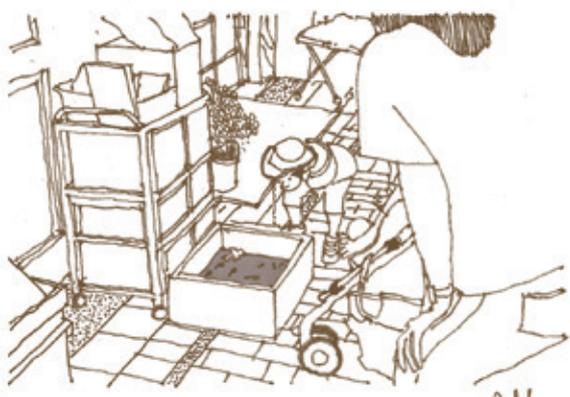
「夕焼けだんだん」は商店街への粋なアプローチ



商店街の横道はほとんど住宅で占められる



約10mの道



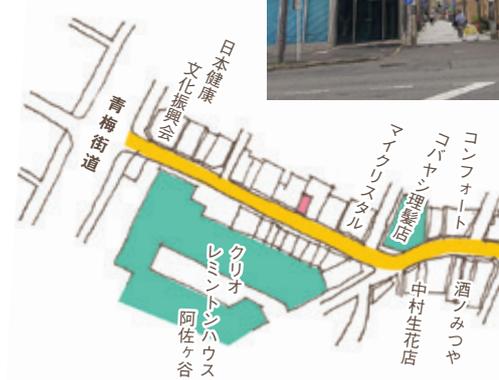
アーケードがかかった商店街には大型チェーン店も多いが、店先に出された発泡スチロールのなかのおたまじゃくしを覗く子供が地元感を漂わせる。

パールセンター 阿佐ヶ谷

商店街



幹線道路に面する青梅街道側のゲートは寂しい

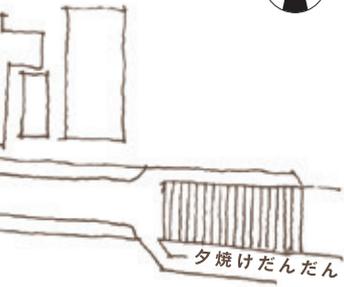


商店街に並行の中杉通りの緑豊かなケヤキ並木

谷中銀座 商店街



台東区谷中。JR日暮里駅から歩いて5分。延長距離約170m、加盟店約70店舗。周辺には寺社が多く法事で訪れる客もあるが、この商店街は地元住民のために自然発生的に生まれた。アーケードはなく歩行者専用道ではないがほとんど車は通らない。また猫がいる街で有名になったが、いまはあまり見られない。今回筆者は1匹も見なかった。有名チェーン店は1、2軒のみ。



マンション

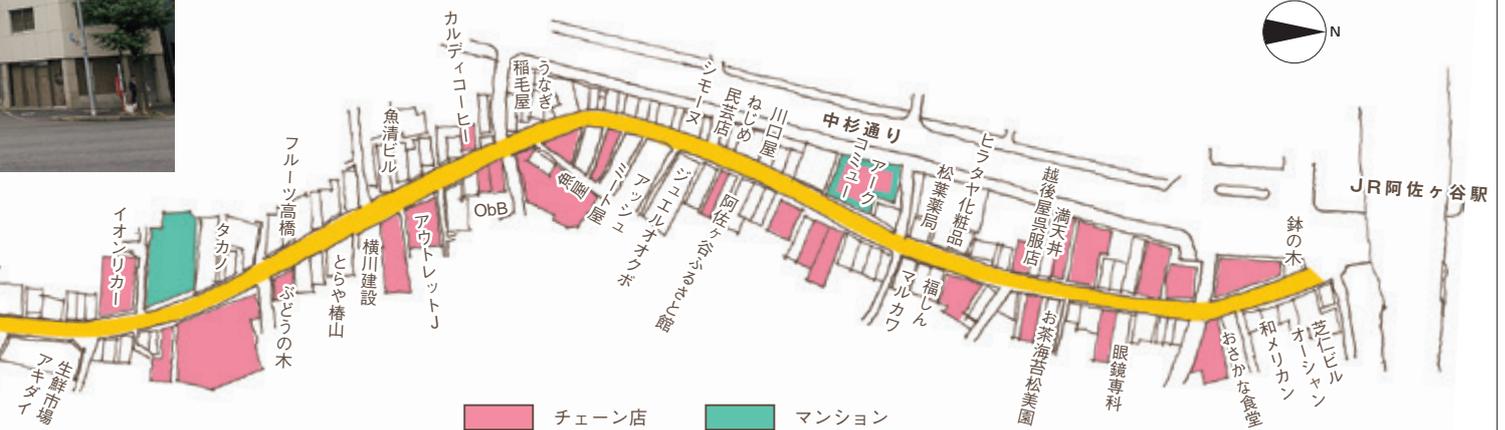


路は適度な閉鎖感があり楽しい

観光客でにぎわっているが、昔のままの風情を感じさせるまちなみ。
商店街側の屋根の上に立っている店の看板設置が商店街唯一の決まり。大きさを字体などは自由。



杉並区阿佐ヶ谷。JR阿佐ヶ谷駅前の徒歩1分。延長距離約700m、加盟店約240店舗。すべてにアーケードがかかっており、それに直接面する店舗やマンションはその維持費を負担している。毎年8月の5日間行われる阿佐ヶ谷七夕まつりは有名。商店街と並行して走るケヤキ並木の中杉通りも必見。



筆者の高校の後輩直木賞作家ねじめ正一の実家



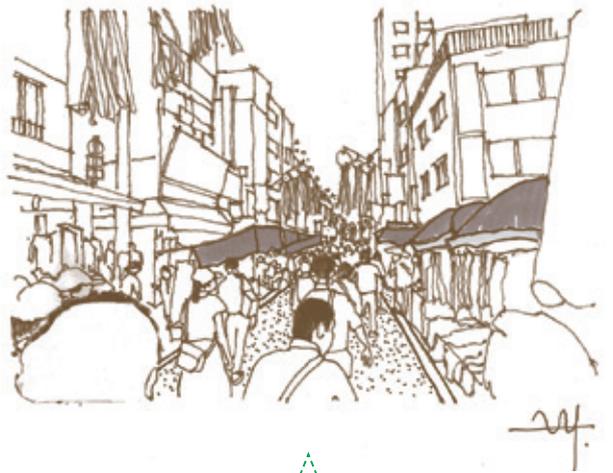
見通せないアーケードの曲がりは楽しい



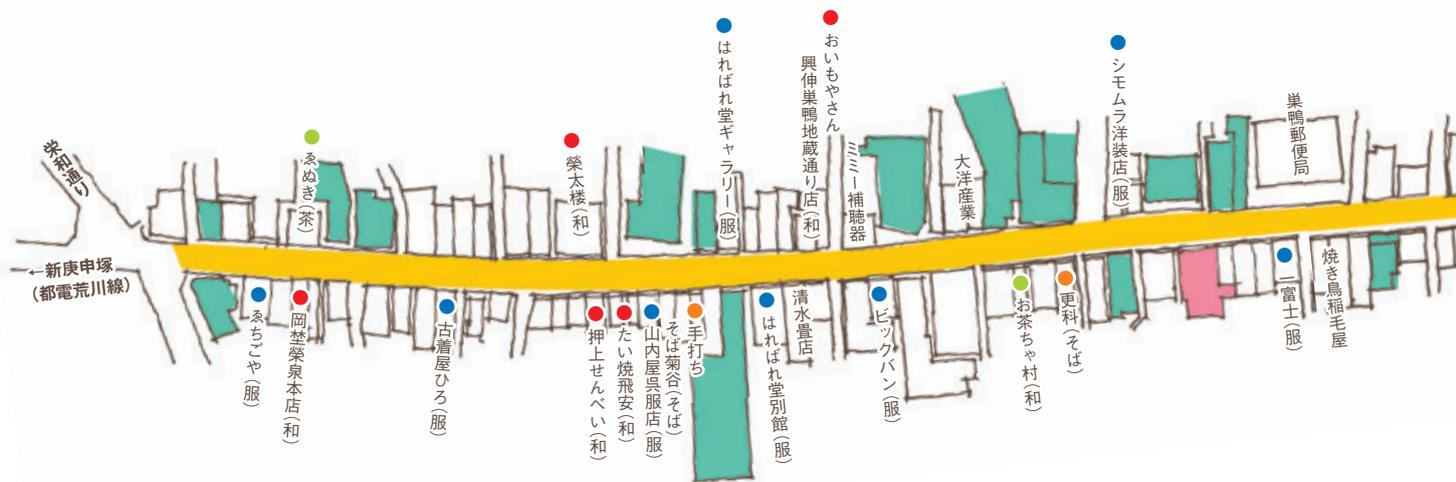
商店街から一歩入った道に賑わいは感じない

豊島区巢鴨。JR 巢鴨駅から徒歩5分。延長距離約800m、加盟店約170店舗。通常は自動車通行可であり、4が付く縁日には片側に約200店の露店が出る。中央部に名刹曹洞宗萬頂山高岩寺（とげぬき地藏尊）があり信仰を集めている。おばあちゃんの原宿といわれるように、クレープ屋は1軒もなく、代わりに塩大福を代表とする和菓子店、日本茶店、日本そば屋、お年寄り向け洋装店がかなりあった。

巢鴨 地藏通り 商店街



多数の屋台が道路を占有しているのが賑わいを高める。人の間を縫うようにして歩くのも商店街の良さ。それにしても衣料品店と食べ物屋さんが多いのが“おばあちゃんの原宿”ならではの。マンションは多い。





縁日の日は道路に衣料品など露店が並ぶ



通りの中心はとげぬき地蔵尊（高岩寺）



巢鴨駅とは反対の新庚申塚駅側のゲート



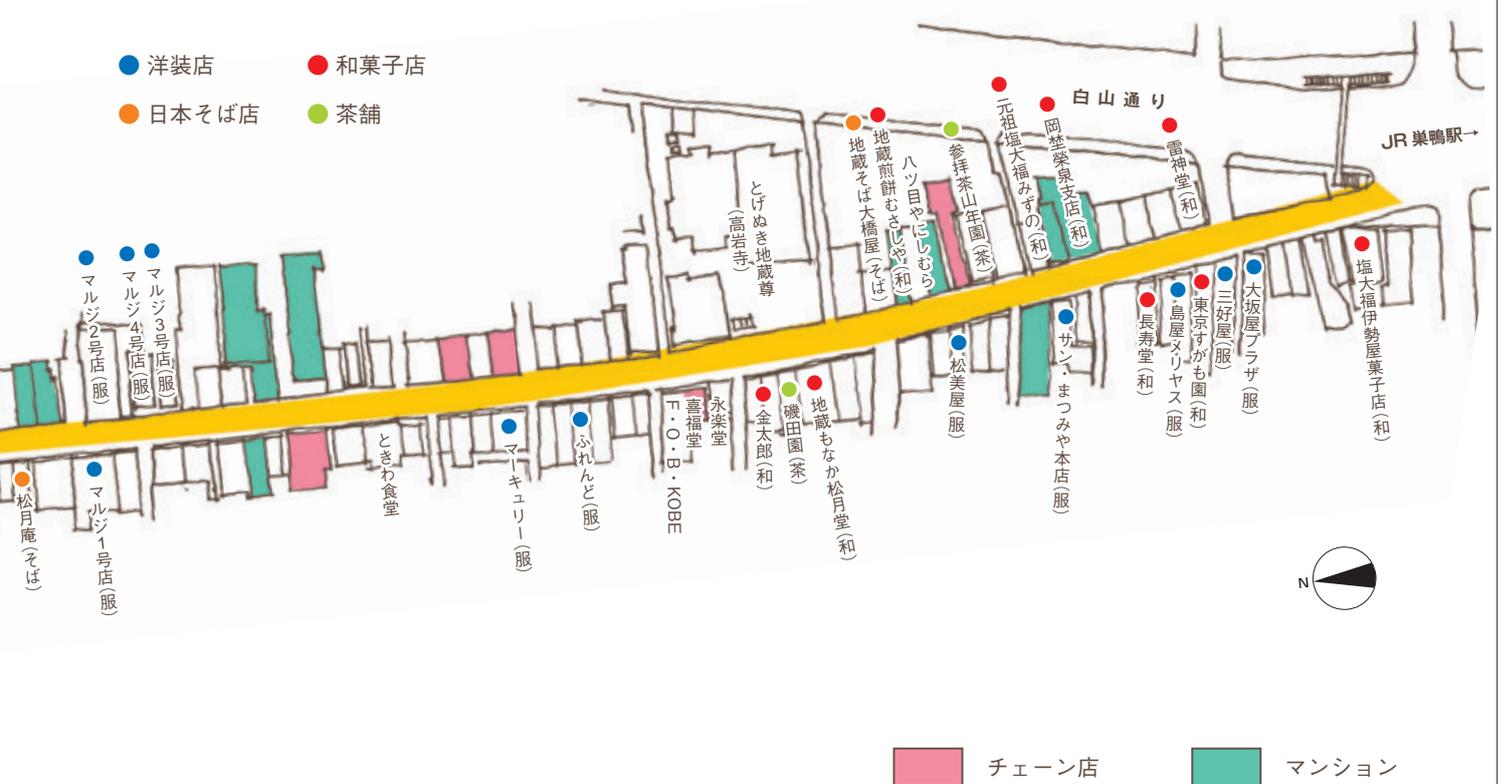
高岩寺前に広げられる朝顔市は下町情緒満点



すべて赤色の衣料品店マルジは4店舗展開



中低層マンションは商店街の風景を変える



全体状況

日本経済団体連合会（経団連）は「採用選考に関する指針」の中で、今年度の新卒者採用（平成29年4月入社）について、3月1日以降に採用広報活動（会社説明会等）、6月1日以降に採用選考活動（採用試験）、10月1日以降に採用内定、というスケジュールを提示しました。経団連に加盟する企業はこのスケジュールに沿って採用選考することになっていますが、実際には多くの企業がこれよりも早い日程で実質的な選考を進めています。公務員については、6月7日の国家公務員総合職第1次試験を皮切りに、都道府県庁、政令指定都市、国家公務員一般職、市区町村でそれぞれ選考が進められています。

本学科学生の主たる就職先である建設業界や不動産業界からは多くの求人をいただいています。また志望者の多い公務員についても、一時期に比べると多くの人数を募集しています。「1期生なので身近の先輩から情報を得られないのは不利」であることを否定しませんが、求人状況や、理工学部他学科・日大他学部出身の先輩方からの応援が受けられる環境を鑑みると、本学科の学生にもたいへん多くのチャンスがあるわけです。

学科独自のキャリア教育・就職支援プログラム

本学科では、大学本部や理工学部が主催するキャリア教育プログラムに加えて、学生が就職活動の準備を段階的に整えられるように学科独自のプログラムを整備しています。授業

表1 内々定・進学状況（8月1日時点）

就職・進学希望者	66人
内々定者	27人
進学決定者	7人
(内々定者+進学決定者)/希望者	51.5%

表2 内々定・決定先一覧（8月1日時点）

業種	企業名	人数
不動産	(独)都市再生機構、(株)日本土地建物、(株)大京、野村不動産パートナーズ(株)、東建コーポレーション(株)、大和ライフネクスト(株)、トーセイ(株)、スターツコーポレーション(株)、JR東日本ビルテック(株)	10
建設コンサルタント	(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)日本水工コンサルタント、昭和(株)	3
建設(ゼネコン)	(株)奥村組、(株)フジタ、杉本興業(株)	3
住宅	大東建託(株)、大和ハウス工業(株)、茨城セキスイハイム(株)	3
サービス(運輸)	東京地下鉄(株)、東日本旅客鉄道(株)	2
建築設備	スターツファシリティサービス(株)、ジョンソンコントロールズ(株)、大和リース(株)	5
建築設計事務所	(株)丹青社	1
進学	日本大学大学院理工学研究科	7

科目としては、1年次に「まちづくりと職能Ⅰ」、2年次に「まちづくりと職能Ⅱ」、3年次に「インターンシップ」を開講しています。現4年生に対しては、3年次後期からの授業時間外に「就職活動ガイダンス」「企業セミナー」「リクルータによる説明会・面談」を実施しました。公務員試験対策については、指導担当の高村教授と後藤教授が主体となって1年次より「公務員講座」を継続して実施し、3年次の春季休暇中には1次試験対策として「公務員試験直前講座」を開催しました。

さらに、本学科では卒業後の業務に関連する資格取得の支援にも注力しています。建築士（一級・二級・木造）と国土交通省技術検定（土木・建築・建設機械・造園・電気工事・管工事の各施工管理技士）は、指定された科目を単位修得して卒業すれば、受験資格の要件（実務経験を除く）を満たすことができます。技術士一次試験（技術士補）と宅地建物取引士試験については、「まちづくり特殊講義Ⅰ（主担当：阿部准教授）」と「まちづくりと職能Ⅱ（主担当：横内特任教授）」でそれぞれ集中的に取り組んでいます。

今年度上半期の状況（4年生）

本学科の現状は表1～2の通りです。業種別では不動産が最も多くを占めますが、建設コンサルタント、ゼネコン、住宅、運輸、建築設備、建築設計事務所といった幅広い業種から内々定を得ていることが本学科の特徴と言えます。大学院修士課程への進学者も1割を超えています。なお、未定者32名のうち19名が公務員志望ですので、公務員採用試験1次募集の結果が出そろった秋口には決定率が一気に上昇する見込みです。

インターンシップ（3年生）

インターンシップは実施時期によってその主旨が大きく異なります。夏季休暇中は就業体験が主目的で、秋以降は就職活動の一環と位置付けられます。

表3 平成28年度夏季インターシップ実習先

業種	企業名	人数
官公庁	国土交通省関東地方整備局、千葉県、栃木県、新潟県、相模原市、千葉市、広島市、横浜市、船橋市、下野市、加須市、川口市、つくば市、戸田市、流山市、西東京市、ひたちなか市、三島市、足立区、板橋区、葛飾区、北区、練馬区	27
不動産	(株)大京、(株)URリネージュ、(一財)建設物価調査会	11
建設コンサルタント	いであ(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、大日本コンサルタント(株)、(株)千代田コンサルタント、(株)ニュージェック、(株)日建設計シビル、(株)福山コンサルタント、(株)東京建設コンサルタント、オリジナル設計(株)、(株)景観設計・東京、(株)ジイケイ設計、(株)都市環境研究所、(株)都市環境計画研究所、(株)地域開発研究所、(株)プランニングネットワーク	19
建設	鹿島建設(株)、(株)竹中工務店、(株)奥村組、(株)熊谷組、(株)フジタ、大林道路(株)、小柳建設(株)、新三平建設(株)、ジェクト(株)、関口工業(株)	11
住宅	住友林業ホームテック(株)、(株)オープンハウス	4
その他 (サービス・福祉・製造・造園)	首都高速道路(株)、東武興業(株)、アビリティーズ・ケアネット(株)、(株)コトブキ、(株)富士植木	7

本学科では、就職活動を間近に控えた3年生に夏季インターシップ実習へ参加して就業体験することを強く推奨しています。実習前の前期授業では、事前教育として業界・業種紹介講座（公務員・建設業（ゼネコン）・建設コンサルタント・不動産・製造・観光）やマナー講座を実施しています。今年度の夏季インターシップ実習先は表3の通りです。官公庁を始め多岐の業種（58機関・社）に、延べ79名（3年生128名。参加率61.7%）が実習に参加しました。

これから就職活動を始めようとする学生へ

一昨年度より企業の採用広報活動の解禁が12月から3月へ後ろ倒しになったことで、それ以前に比べて就職活動の期間が3ヶ月短くなりました。短期決戦と言われるゆえんです。来年度も同じ日程で進みます（実際にはこの日程よりも早く

進むことも念頭においてください）。こういった状況を乗り切るためには、早くに始動することが肝心です。とはいっても、何も知らない状況では何をしたらよいか分からない人もいるでしょう。まずは、リクナビやマイナビ等の就活支援サイトの活用、学内外のキャリア教育講座への参加、秋以降のインターシップ参加などを通じて、情報を収集してください。家族や教員、友人と大いに語ることで、自分の考えを整理していきましょう。そして、遅くとも年内には自分が就きたい仕事（業種）、さらには志望企業を決めましょう。大学院への進学も選択肢の一つです。公務員志望の人は試験対策に本腰を入れてください。

キャリア支援（就職支援）プログラムやインターシップの実施に際しては、本学卒業生を始め多くの方々からご協力をいただいています。御礼申し上げます。

平成28年度 “まち” 行事・イベントカレンダー

4/2 土 ガイダンス

- 〈教室主任〉 八藤後 猛（補佐：後藤 浩）
- 〈担任〉 1年生—田中 賢、依田 光正（補佐：牟田 聡子）
2年生—天野 光一、高村 義晴、押田 佳子（西山 孝樹）
3年生—岡田 智秀、仲村 成貴（田島 洋輔）
4年生—城内 博、後藤（落合 正行）
- 〈就職〉 仲村、高村、天野、田中、城内（横内 憲久）
- 〈インターシップ〉 仲村、岡田、西山、落合（八藤後）
- 〈学務〉 後藤、田中、依田、押田、高村
- 〈広報〉 岡田、後藤、仲村、田中、阿部 貴弘、押田、高村（西山、落合、田島）まち編集・横内

4/6 水 新入生歓迎式(船橋キャンパス)



4/11 理工インセンティブ後の集合写真

4/19 火

平成28年度ゼミナール
配属決定 (3年生)

八藤後研 16名 天野研/岡田研 14名 高村研 13名
後藤研/田中研/阿部研/押田研/仲村研/依田研 各12名

5/14 土

オリエンテーション
12コース

毎年恒例のオリエンテーションを実施しました。オリエンテーションの趣旨は、船橋キャンパスから駿河台キャンパスに移った2年生の歓迎と親睦を図るためです。



Aコース 青木 和夫
江戸から東京へのまちの変遷を見る



Bコース 天野 光一・西山 孝樹
東京の近代土木遺産を訪ねる



Cコース 後藤 浩
まちづくりのための治水・利水施設「ダム」の大きさ・デザインを感じる



Dコース 阿部 貴弘・落合 正行
五感で楽しむ初夏の神楽坂まち歩き



Eコース 依田 光正
最新のユニバーサルデザイン設備



Fコース 横内 憲久・押田 佳子
東京のウォーターフロント～水辺と緑のまちづくり巡り



Gコース 城内 博
足尾銅山



Hコース 岡田 智秀・田島 洋輔
海の上からまち巡り「東京新名所・発掘クルーズ」



Iコース 高村 義晴
目黒区・大橋ジャンクションとまちづくりの一体開発視察



Jコース 八藤後 猛・牟田 聡子
秋葉原の歴史と文化探訪 市場から電気街、そして世界へ文化の発信



Kコース 仲村 成貴
小江戸川越町歩き「名所+アルファめぐり」



Lコース 田中 賢
住宅メーカーの体験型テーマパーク

5/19 木 卒業アルバム委員会発足

5/21 土 理工・短大合同スポーツ大会
(船橋キャンパス)

アームレスリング部門 優勝
(1年 6038久保 大樹、6044小島 麟太郎、6055高田 亜希)



左から 高田、久保、小島

6/12 日 付属生オープンカレッジ
(駿河台キャンパス)

まち科ブース来場者332名 (父母除く)
※昨年281名、一昨年285名
理工学部総計来場者684名 (父母含む)



6/25 土 後援会父母懇談会
(船橋キャンパス)

参加者数 68組
・ 1年生 21組 ・ 2年生 16組
・ 3年生 13組 ・ 4年生 18組



7/3 日 まちづくり工学専攻初の大学院
入学試験 (駿河台キャンパス)

7/10 日 入試フォーラム
(駿河台キャンパス)

まち科ブース来場者516名 (父母除く)
※昨年502名、一昨年491名
理工学部総計来場者1,716名 (父母含む)



8/6 土 7 日 オープンキャンパス
(船橋キャンパス)

まち科ブース来場者 (父母除く)
・ 1日目 765名 ※昨年 680名、一昨年 487名
・ 2日目 689名 ※昨年 487名、一昨年 422名
理工学部総計来場者8,449名 (父母含む)
・ 1日目 4,561名 ※昨年4,066名、一昨年4,026名
・ 2日目 3,888名 ※昨年3,215名、一昨年3,765名



8/27 土 後援会地方父母懇談会

出席者 ・ 仙台会場 (後藤 浩) 1名 (申込者1名)
・ 名古屋会場 (田中 賢) 1名 (2名)
・ 新潟会場 (依田 光正) 2名 (2名)
・ 福岡会場 (押田 佳子) 0名 (1名)

新任教員・職員紹介

平成28年4月1日より着任された教職員の皆様です。よろしくお願いいたします。



教授
たなか やすし
田中 賢

新任 最終学歴 2000年 日本大学大学院理工学研究科博士後期課程建築学専攻修了
学位 2000年 博士（工学）／日本大学
資格 1995年 一級建築士
職歴 1987年 積水ハウス株式会社
2004年 日本福祉大学 准教授
2011年 日本福祉大学 教授
座右の銘 人間万事塞翁が馬



客員教授
はぎわら かずひこ
萩野 一彦

新任 最終学歴 1982年 千葉大学園芸学部環境緑地学科卒業
学位 2011年 博士（工学）／千葉大学
資格 1995年 技術士（建設部門）
職歴 1982年 株式会社オオバ
1998年 早稲田大学芸術学校 非常勤講師（兼業）
2016年 日本大学 客員教授
座右の銘 乞わんに従う（作庭記より）



助手
たしま ようすけ
田島 洋輔

新任 最終学歴 2005年 日本大学大学院理工学研究科博士前期課程海洋建築工学専攻修了
学位 2005年 工学修士／日本大学
資格 2008年 技術士補（建設部門）
2011年 技術士（建設部門）
職歴 2005年 株式会社建設技術研究所 東京本社環境部
2016年 日本大学 助手
座右の銘 笑う門には福来る



変更

4月1日より、
教授から現職に変更

よこうち のりひさ
特任教授 横内 憲久



新任

大好きな『まち』は生まれ育った浅草です。現在小学5年の息子の育児に奮闘中です。よろしくお願いいたします。

なかざと きみえ
事務 中里 貴三恵

教職員・学生の活躍

平成28年4月1日～9月30日

学会・協会等の受賞、テレビ放映や全国紙・雑誌等に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

随時情報を、横内メールまでお寄せください。なお、本年度の学会等での発表は、次号（4月発行予定）にまとめて掲載します。

■ 助手 落合 正行

第2回 これからの建築士賞

対象：「あだち農まちプロジェクト」
授与組織：（一社）東京建築士会
受賞年月日：平成28年6月8日

■ 教授 城内 博

書籍『はじめようリスクアセスメント—実践職場の化学品管理—』（化学工業日報社）

著者：城内 博、植垣 隆浩
発行年月日：平成28年7月5日

■ 准教授 仲村 成貴

平成27年度土木学会出版文化賞

対象：「ようこそドボク学科へ！」（学芸出版社）
授与組織：（公社）土木学会
受賞年月日：平成28年6月10日

■ 特任教授 横内 憲久

記事「ウォーターフロント開発の変遷と今後の展開」

記事内容：（一社）ウォーターフロント協会講演会（6/7）内容
掲載紙：日刊建設通信新聞
掲載日：平成28年7月15日

理工学部南棟建設の進捗 2016.9.29

現在、駿河台キャンパスでは、新校舎（通称、南棟）の建設中です。平成30年秋に使用が可能になる予定です。完成すれば、いま3校舎に分かれているまち科の研究室も教室も南棟に入ることになります。いましばらくの辛抱です。楽しみにしてください。なお、この欄では今後も建設の進捗状況をお伝えします。

左：3・4・7号館前の南棟建設現場
右：地下部分の鉄骨が生まれ、いよいよ上部空間に着手寸前



編集後記

前号までの高村 義晴先生に変わりまして、編集を担当させていただく横内です。高村先生、長い間ご苦労様でした。さて、今号は特集をかなり前面に出してみました。前から興味があった“商店街とまちづくり”をほとんど手づくりでまとめました。いかがでしょうか。また、学科全員の関心ごとの“就職”の途中経過を仲村先生にいただきました。企業名が入ると一段とリアリティが増します。次号では今年度の総括をお願いする予定です。（憲）